濃天物語

へ遠13
1295
2

但州湯嶋 田屋喜左衛門

特 へ13 1295 2

帝國博物館圖書

寛政天明御年二

目録

一 重蔡水陸之事

附 湖船御警衛之事

一 大員之交易不義の事

附 沙汰年初の儀の事

寛永拾弐年二

堂塔水流の事

附 洪水御警衛の事

四月十五日地震ふる事

一子孫繁昌する事

寛永年間の事

正月十九日に

雅楽寮の楽屋に

出雲の牛頭天王と法華経と言あらそふ

[illegible]
像と取なし海雪しと書めおくさ
と[illegible]の[illegible]
の一家[illegible]
[illegible]
[illegible]

世の繁とゝなん十一の家うち武蔵
野なる小野と云所ひろく川ふゝ
く播磨の国ひの郡に出る山
深しゆんぢ坊ゆんぢ坊の御名うち
ゆゝ一年住ける御所
ゆゝ御所の表沢のうち
ひいきうちえうり御名小屋も
ゆゝ月上中下弥陀を造り
ち阪毒ひ星焼わるひ三月ふお

毒もり四月寅て宣旨ありて
ゆゝ古阪毒ひ紅毒へとも此風
所しいきうち乃ち平西帰小屋
野ふ郎ひまですのひげ下雲まり
黄ゝ毒ゝ寅人うち二下ゝ下毒
ゆゝ毒ひ毒ゝ法方うち御家ふ
といゝ中ふいゝ中ふ十八家の
付ゝ毒して毒ゝ毒をわゝうして拙
家といゝり郎ゝ御家ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中世へ小子[illegible]
[illegible]
[illegible]

御年ふるしとて法眼御ぶんきと
せたる義乃ふるうと又身ゐ世を
まつ者ものにあるべきとて一会うり
とも縁といてまき常乃世界ゆの
者乃と世界とをとゝ四つうるあ
他系をとひとしく世の豊寿をふ
いなるゝ所まで所人所家とうり
てるるの世界さよ父と出給う
とも若い後まし求さと以月をて

神妙ふかしとも思ひ所ふ方法をの
所い父と家のうるあうり眼法う
ゆひて者乃人とお新をふとも
といふそ他乃ちひる法を方屋上
法方乃神の所りるうあ月神明の紙
文ふうりて行ふまた行のもうと
しまうと法んやとふ所へ
他系八父の命ふと法長明神へ
長治し神子のうあるといのりて海

[illegible]月年八月十五日に夜[illegible]ふいとあらひ
[illegible]家ひらき久長町大のやあもとに
[illegible]
[illegible]年七月[illegible]
[illegible]
[illegible]
大名町大員又右衛門
[illegible]今も一ツ年[illegible]大わもとうへよ
[illegible]ずひ[illegible]ん[illegible]

[illegible]は泡[illegible]も怪び十
[illegible]年七月[illegible]又右衛ふ
[illegible]て泡[illegible]年と
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]年 [illegible]のひとも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

の譜をふるほどに源氏物語の事
を初のすぐまでとんで入ていり
度と云へとわひ絵をも印板源
氏五十四帖うつし彩色方
の仕へ病身のくいを出ぬ源氏
物語を清書と云て二
三年間ふ絵今十枚ほ清書
終ひこれつて更に後編と事一
ふ書四入そこれまでといふわとす

ふ家ほとれりあ出ぬ三の
名をとりまとりて文右ふ家に入り
とふり

大奥又右ふ安房不義の事

附 初濃屋事

出式人ふ文ふ隠源の乃と載
事わとこと云ひ情ひとは
しまふとの二月ふ人れ断り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わりていとうかしたる時なりしこの間の
とおりうそ世とのみといとせ世
いとのたりどもいとい数のたりなの
ちひそ意ちうしひそとんの様へ
うおいそ遠そうしうとうぶでそたれ
ふるうたいおとそうおぶんへうあ
まの耳へうたいうまのうたうまう
とまうまうまうまいたうあるうたり
しまあたしたりうまのうたいうそ

とうたりひでそうとう寄のたうへ重新
沈よりしいかのうそうとうとおけそ
うそたりひでも行へ重新二度
ちううというちう例の学入ちう
けそしたへ沈そちのるわうれ沈の
うへ新でのんとそうとおひで沈とし
埴へうう沒けの寄けのとのふうう沒
のうそうのんのんうそたりう沒へうそわう

し西ゝいとゝ張ゝあり大せいの
奥の後たゝゝ水せゝ央せゝにわりて
てゝ行ゝ沙云仕ゝ今やゝゝゝゝ
沙宝寺ひわゝゝとゝゝゝゝゝゝ
きゝ月ゝゝゝもゝゝゝゝ今ゝ砂ゝ石
もゝゝゝゝゝに海ゝあゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むしひけるに所にて濃紙をいとをすぼし
見んとて中はりをおらをとり海辺に
の網とりて出びうひ入びの船に
立に前出をとりて月明はうり
ぐ沖の漁火して海の
幸う事をおぼえ船の
おもをとりて中
沖をしうぼりの
高をとり大見の中
者人思び入を

すを西と海辺大きをとりびておのを出
のごとをおかりはをとをとを
耳をとりてびをとりしうを中幸又
はをとして海りをりけた
者月をとをとを海辺とを
行をを入をとをとををを
紙を海中沖人高雄とのを
入をとをとおをををを
高を利出ををををを

[illegible]

源氏物語第二